

東京都立府中療育センター 第35回地域療育講習会アンケート結果 「重症心身障害児・者の呼吸障害と呼吸サポートチームの活動」

令和6年9月20日(金)午後2時から4時まで

【 聴講申し込み数について 】

	施設数	人数	web申し込み件数
総数)	35所	98人	63件
内訳) 地域施設従事者	33所	62人	49件
ご家族	1所	1人	1件
府中療育センター従事者	1所	35人	13件

* 地域施設従事者については、個人ごとに申し込まれた施設と、1件の申し込みで複数人で聴講される施設がありました。

【 アンケート回収件数について 】

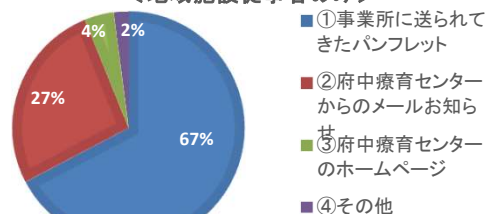
	件数	回収率	母数(web申し込み件数)
総数)	40件	63.4%	63件
内訳) 地域施設従事者・ご家族	29件	58.0%	50件
府中療育センター従事者	11件	84.6%	13件

1 この講習会を何で知りましたか？

<地域施設従事者のみ>

該当項目	件数
①事業所に送られてきたパンフレット	33
②府中療育センターからのメールお知らせ	13
③府中療育センターのホームページ	2
④その他	1
合計 (地域施設従事者Web申し込み件数)	49

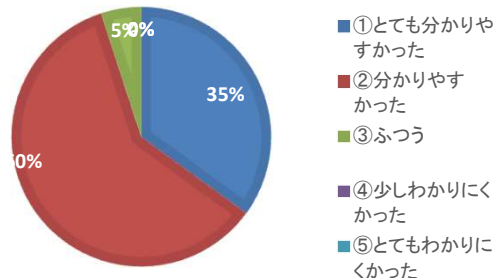
この講習会を何で知りましたか？ <地域施設従事者のみ>



2 講義の分かりやすさについて

該当項目	件数
①とても分かりやすかった	14
②分かりやすかった	24
③ふつう	2
④少しわかりにくかった	0
⑤とてもわかりにくかった	0
合計 (アンケート回収件数)	40

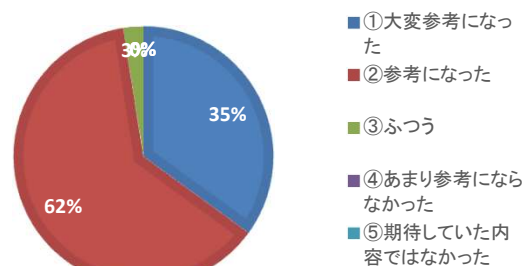
講義のわかりやすさについて



3 講義の内容について

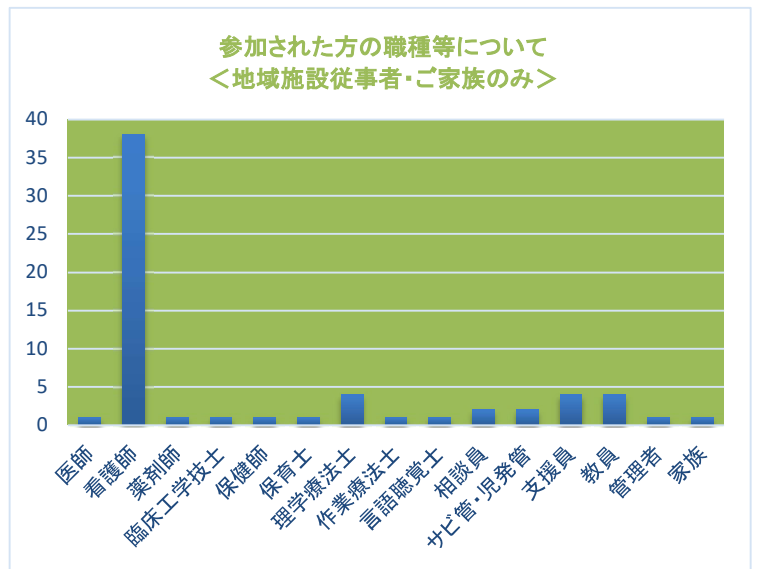
該当項目	件数
①大変参考になった	14
②参考になった	25
③ふつう	1
④あまり参考にならなかった	0
⑤期待していた内容ではなかった	0
合計 (アンケート回収件数)	40

講義の内容について



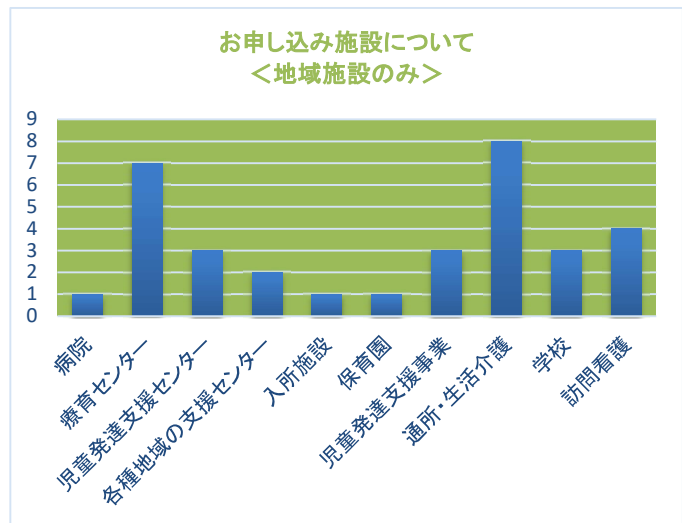
4 参加された方の職種等について
 <地域施設従事者・ご家族のみ>

該当項目	人数
医師	1
看護師	38
薬剤師	1
臨床工学技士	1
保健師	1
保育士	1
理学療法士	4
作業療法士	1
言語聴覚士	1
相談員	2
サビ管・児発管	2
支援員	4
教員	4
管理者	1
家族	1
合計（地域施設従事者・ご家族人数）	63



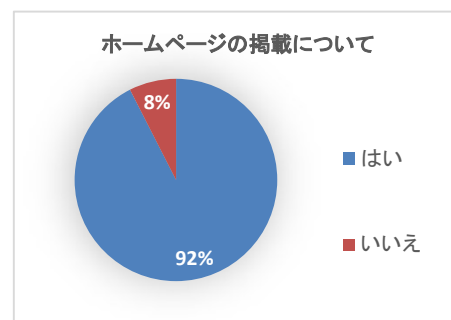
5 お申し込み施設について
 <地域施設のみ>

該当項目	件数
病院	1
療育センター	7
児童発達支援センター	3
各種地域の支援センター	2
入所施設	1
保育園	1
児童発達支援事業	3
通所・生活介護	8
学校	3
訪問看護	4
合計（地域聴講申し込み事業者数）	33



6 ご意見等を無記名で、当センターホームページにアンケート集計結果として掲載してもよろしいでしょうか？

	件数
はい	37
いいえ	3
合計	40

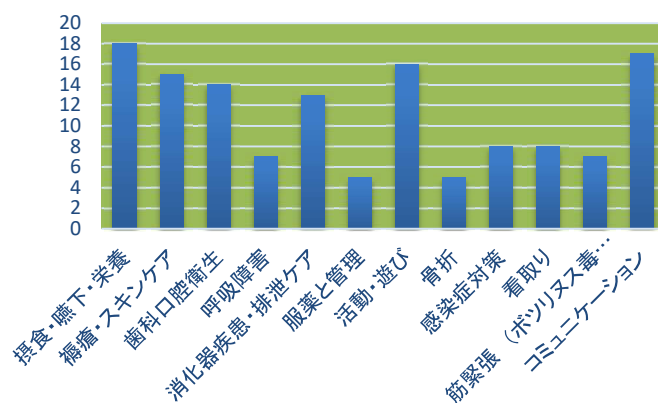


7 今後の講習で取り上げて欲しいテーマについて

<複数回答>

テーマ	延べ人数
摂食・嚥下・栄養	18
褥瘡・スキンケア	15
歯科口腔衛生	14
呼吸障害	7
消化器疾患・排泄ケア	13
服薬と管理	5
活動・遊び	16
骨折	5
感染症対策	8
看取り	8
筋緊張（ボツリヌス毒素療法）	7
コミュニケーション	17
合計	133

今後の講習会で取り上げて欲しいテーマについて <複数回答>

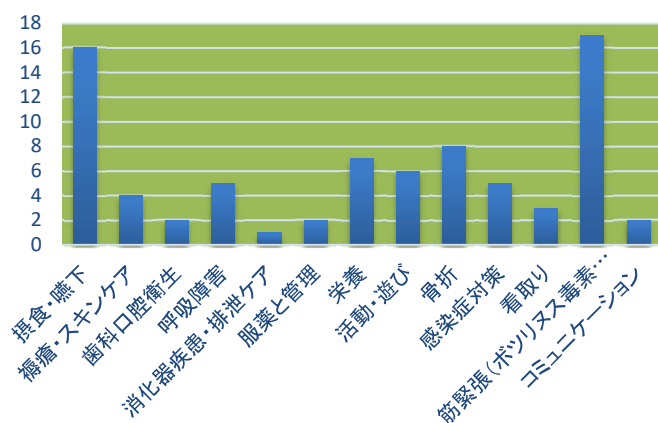


8 これまでに参加した府中療育センターの講習会のテーマについて

<複数回答>

該当項目	件数
摂食・嚥下	16
褥瘡・スキンケア	4
歯科口腔衛生	2
呼吸障害	5
消化器疾患・排泄ケア	1
服薬と管理	2
栄養	7
活動・遊び	6
骨折	8
感染症対策	5
看取り	3
筋緊張（ボツリヌス毒素療法）	17
コミュニケーション	2
合計（複数回答）	78

これまで参加した府中療育センターのテーマについて <複数回答>

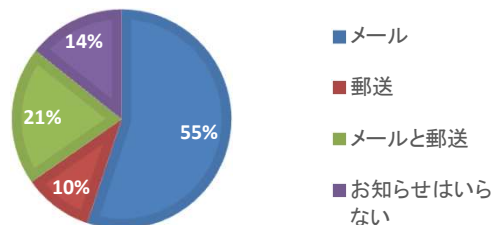


9 今後の府中療育センターからの講習会お知らせについて

<地域施設従事者のみ>

テーマ	延べ人数
メール	27
郵送	5
メールと郵送	10
お知らせはいらない	7
合計（地域聴講web申し込み件数）	49

今後の府中療育センターからのお知らせについて <地域施設従事者のみ>

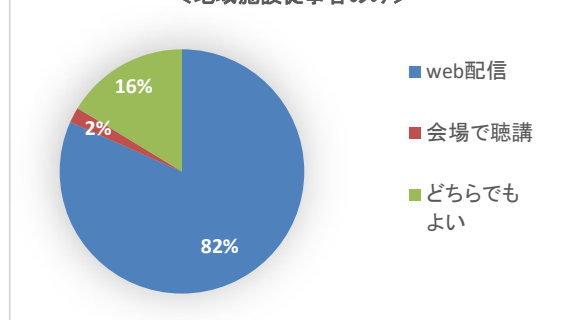


10 今後の講習会の開催方法について

<地域施設従事者のみ>

テーマ	延べ人数
web配信	40
会場で聴講	1
どちらでもよい	8
合計（地域聴講web申し込み件数）	49

今後の講習会の開催方法について <地域施設従事者のみ>



11 ご意見 ご感想

***当センターのホームページ掲載にご了解いただいたもののみ、文字等の修正は行わず原文のまま到達順に記載しています。**

- ① 音声が開けないトラブルがあり、講義時間が十分でなかった点は残念です。MEさんの講義は、なかなかないので、興味深く今回、受講しました。分かりやすく、よかったです。カフアシストは、多院では、PT業務としても実施されており、センターは、やっと、看護師が実施できるようになったのは、ちょっと進歩ですが、遅れていますね。講義の中で、自職に対し、看護師さんというように、職種にさんづけしているのが、気になりました。
- ② 児童発達支援事業所の児発管として講義を受けさせて頂きました。保育士免許の為、医療の内容については難しいと思いましたが、知っておくべき事もありましたので今後、看護師と共有させて頂きたいと思いました。
- ③ 全体についての感想です。様々な職種がチームを組んでの取り組みが、とても良いなと思いました。個人的には臨床工学技士の方に話を聞くということがあまりなかったので、参考になりました。
- ④ 講義はとても聞きやすかったです。せっくなので、実際のケアの様子や実技があるとより分かりやすかったと思います。
- ⑤ 歯科衛生士さんの講義がとても分かりやすく参考になりました。
- ⑥ ご利用者にあてはめはながら考えながら講習聴かせて頂きました。今後の支援に生かしていきたいと思います。
- ⑦ 大変わかりやすい講義内容でした。1点、薬剤に関する講義のスピードがもう少しゆっくりだったら、薬剤の解説が理解しやすかったかもしれません。
- ⑧ カフアシストの後継機のところはハウリングで何を言っているのかほとんど聞き取れなかったもので、ホームページで再度周知して欲しい。「呼吸と口腔ケア」歯科衛生士 本田さんの資料15ページの口腔健康管理図3の表示が資料印刷で出てこないもので、ホームページで再度共有して欲しいです。音声が出ていなかったり、ハウリングを起こしたりして聞き取りにくい部分があった。短時間で盛りだくさんの講習内容でとても面白かったです。ただ開催時間が仕事を中断しにくい、参加しにくい時間だと思いました。
- ⑨ 全てのご講義が、大変有用な情報に満ち、ご説明も大変わかりやすく、全体としての構成にも無駄がなく充実した講習でした。ありがとうございます。普段、仕事をしながら考えてきたことについては、答え合わせ的な「確認」となり、これを以て他職種の方に説明、共有しやすくなると期待が持てました。一方、「呼吸障害に関連する薬剤について」の内容は、自分にベースのない領域だけに、そのような関係性があるのか、と、新たな知見、学びを得ることとなりましたが、知識がないところに、有用な情報量が多く、ご説明をnote、消化できませんでした。当方の力不足のためにお手数おかけし大変申し訳ありませんが、資料になかった口頭のご説明(ネット検索でヒットするような薬剤の説明ではなく、ここでご説明下さっていた夫々の関連性・機序のところ)を文章で補足提供頂けたら、大変ありがたく存じます(受講者に後日オンデマンド配信ある場合は、再聴講で確認致します)。
- ⑩ 呼吸サポートチーム(RST)の活動内容を知り、府中療育センターの職員やご家族、ご利用者にとって、とても心強い存在だろうと思いました。多職種との連携で意見を出し合い、良い方向に進んでいくチーム活動。他にも色々なチーム活動があり、他チームとも連携がとれる環境は素晴らしいと思いました。
- ⑪ 呼吸に的が絞られていて、注意すべき点や必要なケアが分かりやすかったです。ありがとうございました。
- ⑫ 参考資料もわかりやすく、とても良かったです。
- ⑬ 多職種の演題が開けて、勉強になりました。私は施設で看護師として働いているので、特に歯科衛生士さんの話が興味深かったです。ありがとうございました。
- ⑭ 医師・看護師だけでなく歯科衛生士などの視点からも話が聴けてとても参考になりました。
- ⑮ 呼吸については、皆さんに関係している内容なので、とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ⑯ 資料作成や話すテンポなど、全体的にとっても伝わりやすく理解しやすい内容でした。私たちの施設でも、気管切開をされている利用者様が増えてきていますので、とても勉強になりました。
- ⑰ ご講義くださった皆様、簡潔で分かりやすい内容だと思いました。ありがとうございました。今年4月から通所施設の勤務となり、現状で人工呼吸器を装着されている方とかかわることはありませんが、療育センターでの取り組みの一端を知ることができてよかったです。呼吸器疾患と口腔ケアが密接な関係があることを再認識できたこと、感染症が猛威を振るっている昨今、少しでも快適に生活を送ることができる様、利用者の方と関わっていければと思います。
- ⑱ 補聴器を使用して直接聴いているのですが、これまでの講習会に比べて、今回は音質はよく、とても聴き取りやすかったです。熱心な質問があり、有意義なテーマだと感じました。

- ⑮ 呼吸に関して多職種でかかわっていることが理解できました。今後は、嚥下と呼吸の関係がわかるような話を聞きたいと思いました。
- ⑯ 聞きやすい講義でした。ありがとうございました。
- ⑰ わかりやすい資料、話し方、時間配分でとてもよかったです。参考になりました。ありがとうございました。
- ⑱ 療育センターの呼吸器チームの活動状況や呼吸器の種類が具体的に理解できた。経口摂取していなくても、口腔内ケアが重要であると、改めて痛感した。
- ⑲ 講義の中でも「呼吸と口腔ケア」「呼吸に関する医療デバイスについて」について興味をもって聴講することが出来ました。
- ⑳ 薬剤について、もう少し詳しく聞きたかった
- ㉑ 当センターの臨床に即した内容だったのでとても参考になりました。もう一度資料を見直して知識の整理をしたいと思います。
- ㉒ 職務の都合で途中から参加になり申し訳ありませんでした。福祉職の私にもわかりやすい内容でした。ありがとうございました。
- ㉓ 当センターのRSTの活動について理解が少し深まりました。
- ㉔ 専門用語が理解できなかった。
- ㉕ ありがとうございました。

12 ご質問と返答

<ご質問>

RSTの研修で施設外のケアについてのご質問になりますので、難しいと思いますがすみません。
呼吸以外で転院された利用者様が、転院先で呼吸状態が不安定になることが多いです。慢性呼吸不全等はあるので呼吸以外の状態悪化から、呼吸に影響するとは思いますが、コロナ前は転院先に職員が行って対応することもあり、重症者施設以外での重症者の呼吸管理の難しさを感じています。
転院時に施設での呼吸管理は情報を送っているのですが、日々の細かな見方や対応等、個別性が高い重症者のケアについて共有が不足しているのかなと感じています。転院先での情報共有等にか工夫されていることはありますか？

<回答>

- 1 転院先がどのような施設、病院かによって対応は異なりますが、重症心身障害児・者施設から急性期治療を行う総合病院などに転院する場合を想定すると、確かに細やかな治療、ケアが難しいことが多々あります。医師-医師間、看護師-看護師間の申し送りを密に行う必要があり、詳細をまとめた紹介状、看護サマリーを必ずお渡しし、電話や対面などによる細やかな申し送りも欠かせません。
特に成人医療を行っている病院では、医師、看護師共に重症心身障害者の治療、ケアに慣れていない場合があり、適切な体位、吸引の頻度やタイミング、酸素の許容量、カフアシストの使用など、個別性が高い患者さんの状態、ケア方法を共有することが大切です。可能であれば転院後も往診に伺う、もしくは電話で情報共有を密に行うなどの対応が必要と考えます。しかし、現実にはなかなかうまくいっていないことも多いと思っています。
一方で、転院には副次的なメリットもあり、新たな医療従事者の目が入ることにより、これまで指摘されていなかった新たな問題点やその評価、治療が加えられることも多くあります。そのため、複数の病院、施設で連携しながら医療ケアを継続することの重要性を感じています。

<ご質問>

バクテリアフィルターつき人工鼻のお値段を教えてください。

- 2 <回答>

事業者による定価が示されていないことが多いので、直接事業者にお尋ねください。

<ご質問>

カフアシストの後継機のところはハウリングで何を言っているのかほとんど聞き取れなかったので、ホームページで再度周知して欲しい。「呼吸と口腔ケア」歯科衛生士 本田さんの資料15ページの口腔健康管理図3の表示が資料印刷で出てこないで、ホームページで再度共有して欲しいです。

<回答>

- 音響不調があり申し訳ありませんでした。カフアシストについてお話ししたことを記載いたします。
3 カフアシストE70はシェアも多く、メーカー製造・販売終了に関して、困惑されているご施設・ご家庭も多いと思います。その後、同じ後継機種ではありませんが、外寸や機能が同等の機種が発売されました。
口腔健康管理図は引用のため資料掲載は行えず、またURLはお知らせできません。お手数ですが、一般社団法人 日本老年歯科医学会のホームページ上で公開されている「介護保険施設等入所者の口腔衛生管理マニュアル(2019年度版)」の4ページ をご確認ください。
そのほかにも、こちらのマニュアルは日常の口腔衛生管理において非常に参考になる書物ですので、ぜひ全編を通して一読いただく事をお勧めします。

<ご質問>

「呼吸障害に関連する薬剤について」の内容は、自分にベースのない領域だけに、そのような関係性があるのか、と、新たな知見、学びを得ることとなりましたが、知識がないところに、有用な情報量が多く、ご説明をnote、消化できませんでした。当方の力不足のためにお手数おかけし大変申し訳ありませんが、資料になかった口頭でのご説明(ネット検索でヒットするような薬剤の説明ではなく、ここでご説明下さっていた夫々の関連性・機序のところ)を文章で補足提供頂けたら、大変ありがたく存じます(受講者に後日オンデマンド配信ある場合は、再聴講で確認致します)。

<回答>

説明がわかりにくくご迷惑をおかけしました。質問の内容に適切に対応できているかは不安がありますが、少し説明をさせていただきます。

●去痰薬

- ・気道粘液溶解剤→痰の咯出しやすくなるが、さらさらの痰が多くなり呼吸がしづらくなることもある
- ・気道粘液修復薬→「シアル酸」と「フコース」の割合を整え、痰や鼻水のねばつきを減らして出しやすくする。また粘液の出すぎを抑える。
- ・気道潤滑薬→「肺表面活性物質(肺サーファクタント)」を増やして気道の滑りをよくし、痰や鼻水が引っ掛かりにくくする。

●抗アレルギー薬

- ・第一世代抗ヒスタミン薬→即効性に優れる。「眠気」「口渇」などの副作用が多い
- ・第二世代の抗ヒスタミン薬→効果が十分発揮されるのに時間がかかるが副作用が少ない。
- ・ロイコトリエン拮抗薬→鼻づまりがひどい場合や喘息
- ・化学伝達物質遊離抑制薬→肥満細胞からの炎症性物質の遊離を抑制する。

なおオンデマンド配信は行っておりませんのでご了解ください。